

2022年度 事業活動計画

(2022年4月1日から2023年3月31日)

1. 2022年度当協会を取り巻く状況

新型コロナウイルスの感染状況は依然として先行き不透明感が強いものの、今年のゴールデンウィークは3年ぶりに行動制限がなく人流が活発化し、個人消費は持ち直しの動きが見られ始めました。

また、政府は入国者数の上限を緩和する検討に入っており、早ければ6月中にも実施される予定で、将来的にはインバウンド需要にも期待が高まります。

しかしながら、ロシアのウクライナ侵攻を受けた資源価格の上昇や中国での新型コロナウイルスの感染再拡大に伴うロックダウンなどを背景にしたサプライチェーンの停滞等が日本経済に与える影響が懸念されます。

特に、電気、ガソリン等のエネルギーや食品といった生活必需品の物価上昇などで家計の負担が増し、消費回復の先行きにも不透明感が残ります。

さて、本年4月1日より「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されました。同法は、プラスチック製品の設計・生産・消費・廃棄に至るまでのライフサイクルに関わる主体によるプラスチック資源の循環に向けた取り組みの促進を目指しています。

欧州では、既に資源を循環させることで新たな市場や産業を創出し、雇用拡大にもつなげることを狙った資源循環型経済が進められています。EUの循環型経済行動計画(2020年3月発表)では、包装や建設資材、自動車といった主要なプラスチックが使われている製品について、再生材料の含有量の必須要件を提案するとしています。

日本もプラスチック新法によって、循環型経済への移行に向けた一歩を踏み出しましたが、世界各国でプラスチック削減の動きが進み、今後、日本でも使い捨てのプラスチック容器包装にEUのような規制が始まる可能性も考えられます。

当協会ではこれまでプラスチック新法や資源循環戦略、ポジティブリスト等に関する幅広い情報を収集し、技術委員会にて関連するテーマを取り上げてきましたが、今後も環境関連情報を軸に、キャップ業界に役立つ情報を提供してまいります。

この他、会報誌キャップ春秋の発行、ホームページを活用した情報の提供や各種お問い合わせへの対応、及び、大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口などの活動を引き続き行ってまいります。

尚、当協会の事業の実施に当たりましては、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防に万全の注意を払い執り行う事とさせていただきますので、ご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

2. 事業活動計画

2-1. 技術委員会の活動について

定例技術委員会は従来通り2か月に一度、奇数月に開催する予定です。
定例会の他、今期も引き続きワーキンググループを適宜開催し、環境対応等に関する諸課題について検討してまいります。

特に近年は清涼飲料 PET 商品の資源循環への取り組みが加速しております。企業間(飲料メーカー、流通、廃棄物処理業者等)や自治体等との連携による自主回収の仕組み作りや実証実験、水平リサイクルなど環境に関する最新の情報収集に注力し、協会として取り組むべき今後の方向性について議論していきたいと考えます。

また、前期の活動でも触れましたが、現在、薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会器具・容器包装部会にてポジティブリストの改編と物質の再整理等に関する検討が進められています。引き続き関係省庁の情報を注視しながら、業界団体との直接的な接点を増やし、適切な対応を検討してまいります。

2-2. 定時社員総会・定時理事会の開催

2-3. 見学会の開催

コロナ禍の影響により2020年、2021年と見学会が開催できませんでしたが、本年度の見学会は環境学習を兼ね10月初旬に予定しています。

2-4. 懇親ゴルフ大会の開催

見学会同様2年間開催できておりませんが、本年度は11月22日に予定しています。

2-5. 会報誌キャップ春秋の発行

2022年度における技術委員会での検討内容、見学会の内容、その他当協会の活動内容などを掲載する予定です。また、今年度よりコスト削減とペーパーレス化推進の為、会員企業の皆様へPDFをメール送信させて頂く予定です。

2-6. ホームページを活用して情報発信

役員や会員情報などの変更事項、及び 2022 年度事業計画、キャップ春秋の掲載などを行います。

2-7. 大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口

本年度も大崎フォレストビルディングでの回収窓口を継続します。

以 上